

令和2年度第1回角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会におけるご意見等

○事前提出のあったご意見等

(1) 角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について

【資料1-1】角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げるKPIの達成状況等について

ご意見等	市からの回答等
令和元年東日本台風、新型コロナウイルスの影響がなければ達成状況も良好な結果になったのではないかと。	令和元年東日本台風による施設の被災や新型コロナウイルス感染症の拡大は、特に施設利用者数やイベント集客数等を目標としている指標の達成状況に多大な影響を及ぼしています。 今後につきましては、一刻も早い災害復旧に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症対策等を考慮した上で、利用者数や集客数の回復を図って参ります。【企画財政課】

【資料1-2】角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価シート

ご意見等	市からの回答等
No.9「住宅取得助成件数」、No.11「空き家改修助成件数」について、好評であったが、国の制度充実で終了したことを納得しました。 No.12「結婚新生活支援事業数」などをさらに充実させてほしい。	令和元年度結婚新生活支援事業による補助金交付件数は18件、世帯人数は45名でした。結婚に伴う経済的負担を軽減するため、新婚世帯に対し、結婚に伴う新生活のスタートアップに係るコスト(新居の家賃、引越し費用等)を支援する本制度を開始しました。広くPRに努め、若い世代を支援して参ります。【まちづくり交流課】
No.33「阿武隈急行線における市内4駅の年間定期外利用人数」に関連して、阿武隈急行線の全線復旧に向けた関係諸機関のご尽力に感謝します。	6月27日より丸森駅～槻木駅間の日中運行を再開しました。今年10月の全線再開を目指しています。【まちづくり交流課】

(2) 地方創生関連交付金事業の効果検証について

【資料2】地方創生関連交付金事業実施計画に掲げるKPIの達成状況等について

ご意見等	市からの回答等
地方創生推進交付金事業評価シートNo.1「道の駅かくだの売上高」について、予想以上の売上、来場者は立派だと思えます。 角田ならではの商品が好評のようです。	KPIの目標達成に向けて、今後も道の駅かくだを拠点とした商品開発、コロナ時代に対応したイベントや企画により、集客、売上げを伸ばして参りたいと考えております。【商工観光課】
地方創生推進交付金事業評価シートNo.3「かくだスポーツビレッジ利用者数」について、スポネットかくだの活動の定着化をどのように支援していくのか理解できませんでした。 インターネットで検索しても「スポネットかくだ」では出てきませんでした。	「スポネットかくだ」は、スポーツ関係団体の連絡調整を行うことにより、地域スポーツが抱える課題解決を図り、「明るく楽しく健康で活力あるまち」を目指す組織で、「スポコムかくだ」を事務局として令和元年9月に設立しました。 「スポネットかくだ」の主な活動は、課題の解決策や役割分担などを検討することであり、この活動を定着させるためには、会議の運営を円滑かつ継続的に行う必要があることから、行政(市、教育委員会)が事務局の活動を支援することとしています。 これにより、スポーツ関係団体と健康づくり・子育て支援、まちづくり関係団体との連携を促進し、多角的にKスポの利用者数増を図るものです。【生涯学習課】

○会議当日のご意見等

角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証について

ご意見等	市からの回答等
<p>総合的には良い方向になっている気はするが、資料1-1の基本目標③についての説明で、要努力が約8割とあり、非常に気になった。西根区長をやっている身として、地域で少子高齢化を非常に実感している。今年の春に西根幼稚園がなくなり、再来年には小学校がなくなり、中学校は10年前に統合になった。地域から幼稚園、小学校、中学校がなくなるという状況にある中で、基本目標③の「若い世代が子どもを産み育てやすい環境の整備」が大変重要で極力進めていかなければならない。「子育て支援の環境や支援に関して満足していると思う市民の割合」が基準値15.6%、平成30年度実績13.8%と今のところ1割台と非常に寂しい状況にある。言い方を変えればまちの魅力度にも繋がる問題である。</p> <p>更にNo.24「全国学力・学習状況調査における平均正答率」では残念ながら、角田市は一部上回っているものもあるが、ほぼ全国平均点を下回っている。これに対して非常に気になり、寂しく思う。</p> <p>若い世代が住み続ける、子育てを考える時には「教育、医療・福祉、レジャー・買い物」の3つの側面がある。</p> <p>特に今回は学力・学習状況調査における平均正答率の指標がなくなり、新たな指標として市内小中学校図書館の貸出冊数に変わり、益々教育の向上が点数だけではないということになると思う。やはり若い世代が子育てを考えていく時には「教育、医療・福祉、レジャー・買い物」が非常に気になる要素になるので、益々こういった所に力を入れて欲しい。角田市の魅力アップにも繋げていって欲しい。</p>	<p>全国学力・学習状況調査について、小学校の国語では全国と同等まで上がったが、中学校では県平均、全国平均と比べると少し低くなっている。角田市では独自の学力テストを実施しており、小学校1年生から中学校2年生までを対象に学力調査をして、児童・生徒の傾向を経年で観察している。中学校に上がってもそれを踏まえて学力ならびに生活状況も含めて指導する体制をとっている。今年、全国学力・学習状況調査が新型コロナウイルス感染症の拡大により中止になったが、角田市独自の学力調査は今年度も実施するので、今後、ご指摘をいただいた学力の向上、魅力ある角田市の教育に寄与していきたいと考えている。</p>
<p>学力の問題は学校だけでなく、家庭環境も大事だと考える。特にしつけの問題は本来なら家庭で行うべきだと思うが、今は学校でしつけも行っている。学校は学ぶ所なので、家庭できちんとしつけをすれば、その分を学校で補う必要もないので、家庭環境も学力向上には大事だと考える。</p>	